

## 大槌町金沢地区の高品質原木しいたけ栽培について

### 1 概要

平成27年度いわて農林水産振興協議会長表彰において、「意欲ある担い手賞」を受賞した兼澤平也氏が、高品質高付加価値を目的としたハウス栽培を行っていることから、その取組について沿岸広域振興局長の現地調査を行ったので報告します。

### 2 栽培内容

兼澤氏は、東日本大震災に伴う原発事故の影響で約7万本のホダ木を全て処分し、植菌を再開した平成25年から現在までにホダ木は約3万本まで回復しました。

原木は自伐により確保していることから、約25cmの大径木まで利用し、無駄の少ない原木活用により最大で10年程度の収穫を可能としています。



氏は、これまでも、高品質な「乾しいたけ」生産を実践し、地域の平均単価よりも高く販売していましたが、四国や九州との差別化を図るため、岩手県の冷涼な気候を利用し、冬期はハウス内で散水を少なめにし、「能都てまり」



佐々木局長(右奥)への兼澤平也氏(中央)  
説明状況(平成28年2月10日)

のように肉厚で大型でありながら、硬く締まった歯ごたえの良い「生しいたけ」の生産を目指しています。

### 3 おわりに

現在、全国的な品不足の影響もあり、乾しいたけの平均価格は震災前の水準である5,000円前後まで回復しており、今後も高値での推移が期待されます。

このような中、普及区域では生産基盤である有効ホダ木本数を震災前のレベルまで回復することを目指し、しいたけ原木を管内で確保するため、原木林のモニタリング検査等を継続することとしています。

また、今回報告したような高品質な生しいたけ栽培についても、特定の需要を確保できるよう関係者と連携しつつ、地域の生産者も巻き込みながら生産量を増加させ、地域ブランドの確立も視野に普及指導を実施していきたいと考えています。